

かみかわ有機農業 ネットワークだより【第35号】

事務局 上川総合振興局産業振興部農務課
上川農業改良普及センター
上川農業試験場
発行 令和5年(2023年)6月

■ 令和5年度 かみかわ有機農業ネットワーク現地検討会開催される ■

令和5年6月12日、「野良処てくてく」にて、有機水田において抑草効果を高める機械の実証試験を視察し、有機農業に取り組む上での生産面での課題解決を図るとともに、参加者間の交流を目的に、現地検討会が開催されました。

参加人数は現地参加・オンライン視聴合わせて、農業者、関係機関、食関連事業者など67名となりました。



アイガモロボ(左)とアイガモ(右)

1 「野良処てくてく」の概要、アイ ガモロボ導入経緯

上川農改 小柴主査、野良処てくてく 浅野氏より説明いただきました。

作付面積 3.6ha で、水稻と野菜の有機農業に取り組んでおり、水稻は 75a でアイガモ栽培、45a でアイガモロボ実証試験に取り組まれています。

水稻は就農当初は手取り除草を行っていたが大変であり、1992年アイガモ農法導入、何回も失敗したが、やり続けてできるようになったとのこと。しかし、年を取り作業が大変になり、人との繋がりや交流の中でアイガモロボに出会い、2023年実証試験に取り組むこととなったとのことでした。



野良処てくてく 浅野氏



上川農改 小柴主査

2 アイガモロボ開発経緯

有機米デザイン株式会社 中村取締役
より説明いただきました。

有機で米を作ると除草が大変であり、
先人の取組「アイガモ、人力、鯉・鮒、
カブトエビ・・・共通は田んぼを濁
す」から考えられたとのこと。12年
前から開発進め、2022年34都府県・
100市町村で実証実験を行い、2023年
に本格的に量産販売されています。

北海道の課題「緯度が高いことによる
ソーラーパネルの発電効率、稲わらの腐
熟の進み方、苗質、低水温」について実
証実験しているとのことでした。

3 アイガモロボ稼働状況

株式会社セキ北海道から説明いた
だきました。

ソーラーパネルで発電した電気のみで
稼働し、GNSS、通信アンテナ介して、
専用アプリで通信、稼働情報蓄積されま
す。深さ1cm単位で調整可能、スクリ
ューで泥を巻き上げながら推進します。
モーター動力をベルト介してスクリ
ューに伝達しており、ベルト・ベアリング類
は消耗品として交換が必要であるとの
ことでした。

4 有機水田におけるアイガモロボ導入実態調査

上川農改 小柴主査から説明いただきました。

アイガモほ場とアイガモロボほ場で、5/29から1週間毎に泥の中の草の数を確
認、収量調査も計画されており、結果は、冬期研修会で報告されるとのことでした。

5 質疑応答

想定される雑草、水田への導入時期と引き上げ時期、大区画水田や小さな水田での
使用方法、導入時の留意点、アイガモとアイガモロボのコスト比較、など多岐にわた
る質疑が行われました。



有機米デザイン(株) 中村取締役



検討会の様子

【今後の予定】

朝市、地産地消収穫祭、現地検討会（2回目）冬期研修会を計画しています。